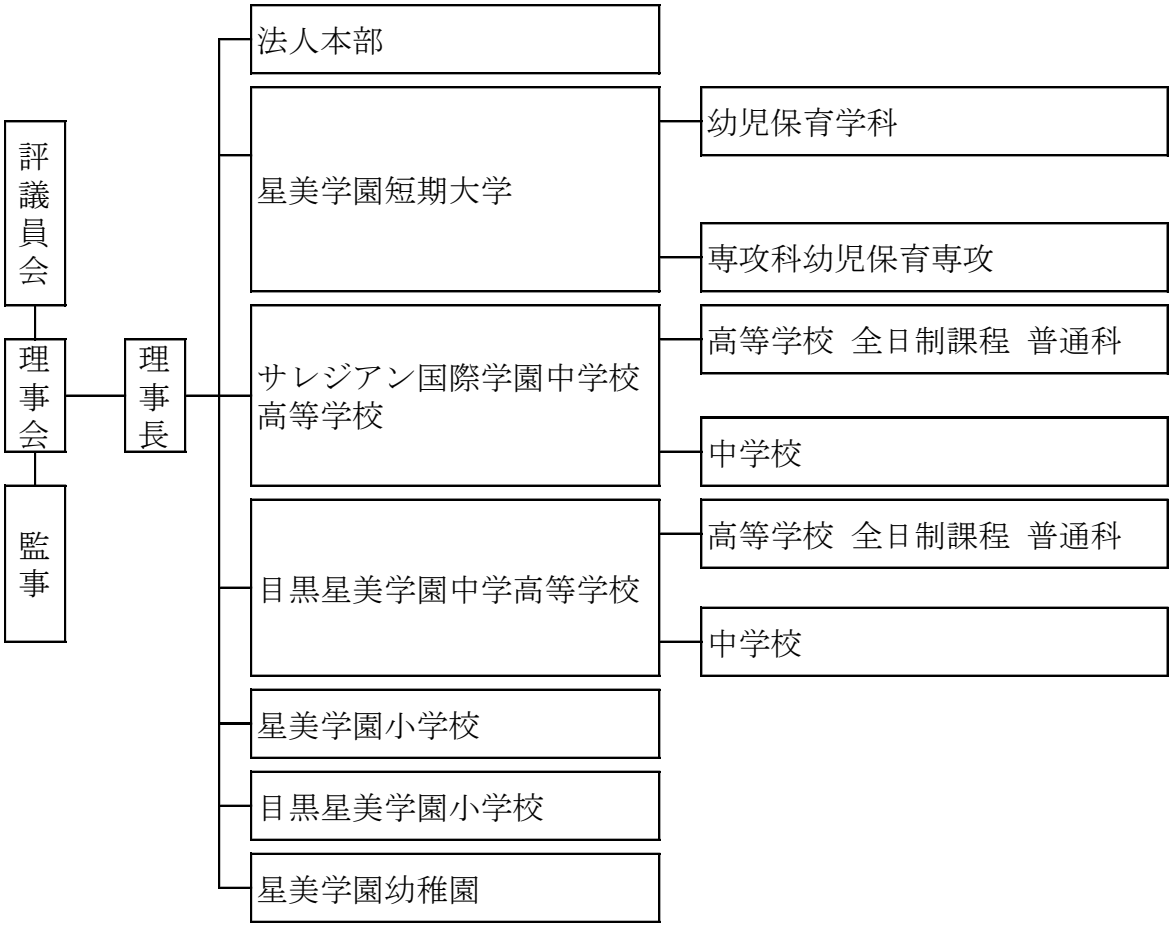
令和４年度事業報告書

Ⅰ　法人の概要

１　建学の精神

学校法人星美学園は，我が国の教育基本法及び学校教育法に従って，扶助者聖母会の創立者聖ヨハネ･ボスコの教育理念である「予防教育法による全人間教育」，すなわち，理性・宗教・慈愛に基づき，家族的教育環境の中で，「誠実な人間，良い社会人を育てる」ことを目的にカトリック・ミッション・スクールとして教育事業に取り組んでいる。

２　学園組織



３　所在地

校　　名	所在地
法人本部	〒１１５－８５２４ 東京都北区赤羽台４丁目２－１４
星美学園短期大学	
サレジアン国際学園中学校高等学校	
星美学園小学校	
星美学園幼稚園	
目黒星美学園中学高等学校	〒１５７－００７４ 東京都世田谷区大蔵２丁目８－１
目黒星美学園小学校	〒１５２－０００３ 東京都目黒区碑文谷２丁目１７－６

４　沿　革

1929年12月	イタリアからシスター・レティツィア・ベリアッティ他5名の宣教女来日
1940年12月	東京三河島「星美学園」創設
1947年01月	星美学園小学校設置認可
1947年04月	星美学園中学校設置認可
1948年03月	星美学園高等学校設置認可
1951年03月	学校法人星美学園設立
1953年01月	星美学園幼稚園設置認可
1954年03月	学校法人星美学園，星美学園第二小学校設置認可
1955年03月	星美学園第二小学校校舎落成（西側半分落成）
1956年10月	「学校法人目黒星美学園」として寄附行為認可 「星美学園第二小学校」を「目黒星美学園小学校」に改称
1959年11月	目黒星美学園中学校設置認可
1960年01月	星美学園短期大学家政科設置認可
1962年09月	目黒星美学園高等学校設置認可
1963年04月	短期大学保育科新設
1967年04月	短期大学国文科新設
1969年05月	短期大学各科の名称を改称（家政学科，幼児教育学科，国文学科）
1971年07月	目黒星美学園中学高等学校体育館完成

1972年02月	目黒星美学園小学校体育館完成
1980年05月	星美学園中学・高校特別教室棟・体育館落成
1985年07月	星美学園プール・南グランド竣工
1991年05月	目黒星美学園中高講堂落成
1993年04月	短期大学家政科を生活文化学科と改称
1999年12月	短期大学国文学科・生活文化学科を改組し，人間文化学科とする設置認可
2000年06月	目黒星美学園小学校新校舎落成
2003年04月	短期大学専攻科幼児教育専攻設置
2004年05月	短期大学日伊総合研究所設立
2005年04月	短期大学幼児教育学科を幼児保育学科に改称 専攻科を専攻科幼児保育専攻に改称
2007年04月	目黒星美学園中高６年一貫教育体制導入
2009年04月	短期大学人間文化学科専攻科イタリア語イタリア文化専攻設置
2011年03月	目黒星美学園中高校舎建替工事完成
2012年08月	星美学園防災非常用倉庫設置
2015年04月	短期大学人間文化学科・専攻科イタリア語イタリア文化専攻廃止
2016年04月	学校法人星美学園と学校法人目黒星美学園合併
2018年04月	短期大学男女共学開始
2022年04月	星美学園中学校高等学校をサレジアン国際学園中学校高等学校に校名変更及び男女共学開始

５　校種別入学者数，在籍者数の状況

令和４年５月１日現在

校　種	学部等	入学者数	収容定員	在籍者数
星美学園短期大学	幼児保育学科	34	200	123
	専攻科幼児保育専攻	58	100	58
	小　計	92	300	181
サレジアン国際学園高等学校	全日制　普通科	79	450	193
サレジアン国際学園中学校		119	450	198
目黒星美学園高等学校	全日制　普通科	注　－	270	179
目黒星美学園中学校		67	270	203
星美学園小学校		90	720	570
目黒星美学園小学校		114	720	652
星美学園幼稚園		57	240	202
学園合計		618	3,420	2,378

注：目黒星美学園高等学校は，高校からの入学募集をせず，目黒星美学園中学校の内部進学者のみ。

６　教職員の状況

令和４年５月１日現在

区　分	学園長	学長・校長等	教頭・副学長	教　員			小　計	職　員				小　計	合　計
				教諭	非常勤講師	嘱託		事務局長	事務部長等	事務員等	嘱託		
法人本部	1						1	1				1	2
星美学園短期大学		1		10	39		50		1	5	3	9	59
サレジアン国際学園高等学校		1	1	24	11	1	38		1	9		10	48
目黒星美学園高等学校		1	1	23	9		34		1	4	3	8	42
サレジアン国際学園中学校		(1)	(1)	18	11		29		(1)	5	1	6	35
目黒星美学園中学校		(1)	1	24	7		32		(1)	6	5	11	43
星美学園小学校		1	1	36		2	40		1	9		10	50
目黒星美学園小学校		1	1	39	4	1	46		1	7		8	54
星美学園幼稚園		1	1	15		3	20			2	1	3	23
合　計	1	6	6	189	81	7	290	1	5	47	13	66	356

パートは，除く。派遣教員は，非常勤講師に含める。

7　役員・評議員の状況（令和４年５月１日現在）

(1) 役員の定数及び実数

区　分	定　数	実　数
理　事	８名以上11名以内	10名（うち外部理事２人）
監　事	２名又は３名	２名（うち外部監事２人）

(2) 役員

役　職	氏　名	勤務形態	選任区分	摘　要
理事長	鈴木　裕子	常勤	学園長	学校法人星美学園学園長
理　事	阿部　健一	職員兼務理事	学長	星美学園短期大学学長
理　事	森下　愛弓	職員兼務理事	校長	サレジアン国際学園中学校高等学校校長
理　事	見城　澄枝	職員兼務理事	園長	星美学園幼稚園園長
理　事	小島　理恵	職員兼務理事	評議員	目黒星美学園小学校校長
理　事	吉田登代子	職員兼務理事	評議員	星美学園小学校校長
理　事	森下ワカヨ	職員兼務理事	学識経験者	目黒星美学園中学高等学校校長
理　事	青木　二郎	非常勤	学識経験者	外部理事（弁護士）
理　事	福岡　　豊	職員兼務理事	学識経験者	法人事務局長
理　事	宮脇　道子	非常勤	学識経験者	外部理事（宗教法人カトリック扶助者聖母会代表役員）
監　事	最首二三夫	常勤	―	元日立オートモティブシステム㈱
監　事	赤木　純子	非常勤	―	宗教法人カトリック扶助者聖母会管区財務

(3) 責任免除・責任限定契約，保証契約・役員賠償責任保険契約の状況

契約なし。

(4) 評議員の定数及び実数

区　分	定　数	実　数
職員評議員	18名以上23名以内	14名
非職員評議員		７名
計		21名

(5) 評議員

氏　名	職員・非職員の別	選任区分	摘　要
宮脇　道子	非職員	宗教法人代表役員	宗教法人カトリック扶助者聖母会代表役員
鈴木　裕子	職員	学園長	学校法人星美学園学園長
阿部　健一	職員	学長	星美学園短期大学学長
森下　愛弓	職員	校長	サレジアン国際学園中学校高等学校校長
小島　理恵	職員	校長	目黒星美学園小学校校長
吉田登代子	職員	校長	星美学園小学校校長
福岡　　豊	職員	学園の職員	法人事務局長
星野　和江	職員	学園の職員	星美学園小学校教頭
江崎　節子	職員	学園の職員	星美学園幼稚園教頭
塚田　憲邦	職員	学園の職員	目黒星美学園中学高等学校事務部長
坂井佐奈栄	職員	学園の職員	目黒星美学園小学校教諭
青木　二郎	非職員	評議員から選任された理事以外の理事	弁護士
見城　澄枝	職員	評議員から選任された理事以外の理事	星美学園幼稚園園長
宮脇　眞澄	非職員	学園の卒業者	扶助者聖マリア修道院院長
谷田部美佳	非職員	学園の卒業者	上智大学短期大学部英語科准教授
森下ワカヨ	職員	校長	目黒星美学園中学高等学校校長
飯田　和俊	非職員	学識経験者	三菱ケミカル㈱監査部マネージャー
栗林　勝彦	非職員	学識経験者	㈱aoyamaFUJI 代表
角田　　誠	非職員	学識経験者	㈱角田誠事務所代表取締役
島元　美恵	職員	学識経験者	目黒星美学園中学高等学校教頭
小林　由加	職員	学識経験者	星美学園短期大学非常勤講師

Ⅱ　事業の概要

1　部門別の諸活動報告（教育事業）

(1) 学校法人

学校法人は，設置する中学校及び高等学校の学校改革を推進し，令和４年４月１日から共学化と校名を変更し，サレジアン国際学園中学校高等学校として第１歩を踏み出した。また，令和５年４月１日から目黒星美学園中学高等学校を共学化と校名変更するための計画は，概ね順調に進み，21世紀の社会に必要とされる人材を育成する魅力と活力のある学校づくりを目標として学校法人全体で支援してきた。また，目黒星美学園小学校も目黒星美学園中学高等学校との一体化を図ることから校名変更を計画し準備を進めてきた。今後も継続して目黒星美学園小学校・中学校・高等学校の連携を図っていく。

(2) 法人本部

ア　寄付金募集の充実

学納金収入及び補助金収入に次ぐ第三の収入として寄付金収入の増加策が本格的に開始し，ホームページで保護者及び同窓会会員の皆様にお知らせし，従来，現金及び金融機関からの振込としていたものをクレジットカードで寄付できるようにして，令和４年度初旬から稼働を開始し，従来より多くの寄付を募ることができた。

イ　中学校高等学校の学校改革の支援

令和４年度は，令和４年４月１日に星美学園中学校高等学校がサレジアン国際学園中学校高等学校に，令和５年４月１日に目黒星美学園中学高等学校がサレジアン国際学園世田谷中学高等学校に共学化・校名変更し21世紀型授業へ移行する重要な年度であることから，資金面等の確保をして支援した。

ウ　学園敷地の有効な活用の検討

当初，中学校高等学校校舎建設のため，幼稚園の移転を計画していたが，本館の跡地を利用することができるようになり，幼稚園の移転予算の執行を中止した。

サレジアン国際学園中学校の入学生が順調に増加すると教室が令和６年度から不足することになる。引き続き令和５年度の入学者数を予測しながら校舎等の建設計画を検討した結果，中期計画（2023～2027）において本館跡地に校舎の建設計画を決定した。

エ　新型コロナウイルス感染症対策

令和４年度は，各校種が可能な限り対面授業を行うために新型コロナウイルス感染防止対策の補助金を活用し，教育の機会を確保するよう努めた。

(3) **星美学園短期大学**

ア　男子応募者の確保

男子学生については，共学元年の令和元年度に２名，令和２年度に３名の入学者を得，令和３年度においては，５名の男子学生を確保したが，令和４年度は，０名であった。

イ　高大連係事業の推進

赤羽北桜高校 家庭学科 保育・栄養科の音楽の授業に本学から講師を派遣した。また,「星美学園短期大学と赤羽北桜高等学校との高大連携事業に関する協定書」を締結し，令和５年度の連携事業について協議を行った。同じく，品川エトワール女子高等学校とも協定書を締結し，令和５年度の講師派遣について協議を行った。

ウ　公的研究費の管理・監査及び研究不正防止に関する規程類の改正

令和３年２月１日に「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」が改訂され，公的研究費の管理・監査について一層の取組が要求されることとなった。また，同時に，研究活動の不正防止についても，これまで通り，きめ細かな取組が求められている。この状況に対応するため，一部の規程の改正を行った。

エ　ドン・ボスコの教育法に関する研修

浦田慎二朗神父による「ドン・ボスコの教育法」に関する職員研修を，例年通り，１月に行った。その中で「短大版：ドン・ボスコの教育法自己診断チェックリスト」を実施し，振り返りを行った。

オ　ハラスメント防止研修の実施

学園の常勤監事を招き，全教職員参加で，ハラスメント防止研修を，３月に実施した。

カ　外部サーバーによる本学ホームページの運営開始

キ　就職指導

就職状況は，次のとおり。

本 科	人 数	%
幼稚園	1	1
保育所	0	0
こども園	1	1
施設	1	1
特別支援学校	0	0
一般企業	4	5
進学（専攻科）	69	88
進学（専門学校）	1	1
その他	2	3
合計	79	100

専攻科	人 数	%
幼稚園	5	9
保育所	25	43
こども園	3	5
公務員	5	9
施設	9	15
特別支援教室	7	12
一般	3	5
就職準備	1	2
その他	0	0
合計	58	100

(4) **サレジアン国際学園中学校高等学校**

ア　教育内容の改革を推し進め，コミュニケーション力・考える力・理数リテラシー力・言語活用力を育成することについては，次のとおり。

(ｱ) ＰＢＬ型授業推進会を設置し，実施をしていった。各教科実施はできたが，まだトリガークエッション等のブラッシュアップが必要である。

(ｲ) 基礎知識の定着を図るための朝学習については，時間をしっかりと取れたが，自由な学習に偏ってしまったという反省が出た。

(ｳ) ２コース制のそれぞれの特徴に従い，より魅力的なコースにするための計画実施を進めたが，１年目で，うまくいかないこともあったが，道筋ができて，次の年には更に推進定着の兆しがある。

(ｴ) ラボの整頓もでき，機材も活用し始めた。個人研究は高１だけで，ラボの活用は，まだ余力がある。

(ｵ) 英国ケンブリッジ大インターナショナル校認定を受け，そこから提供される教育資料等の活用については，試験の仕方や，教科書の内容等での研究や変更が必要だったが，生徒たちの教育には大変効果があった。

(ｶ) 中高一貫キャリア教育の具体案は，進路指導部を中心にキャリア教育の研究を行い，１期生の進路決定時期に向けての問題点や方策等を確認できた。

(ｷ) ＰＢＬ型授業や個人研究，国際学園（英語）としての教育内容のレベルアップは，期末考査後のまとまった時間や，会議の時間を利用して，充実した研修を行えた。

イ　共学化における学校生活の充実を図る。

(ｱ) 心の教育を重視し，相手を思いやる心の育成は，特に心をかけて育成をすることができた。

(ｲ) 女子学年と共学学年，それぞれ安心安全のもとに学校生活ができるためのアシステンツァの強化と生徒指導のあり方は，問題が多く発生したが，生徒指導部と学年を中心に対応し，それの経験をもとに生徒指導の問題についての共有や研究を行った。

(ｳ) 生徒会・委員会や行事，部活動においてＰＢＬ型授業の実践の場としては，教員の意識の改革と生徒の自主性をつけるための教育内容を研究しつつの１年であったが，第一歩を踏み出すことができた。

ウ　募集広報を推進する。

(ｱ) 説明会出席者・入学者の数値目標の設定は，希望の数値に到達できた。

(ｲ) 新たにパンフレットを改版し,より見やすいホームページに改定できた。

(ｳ) 塾・中学校・教会との連携は，教員たちの努力のお陰で強化することができた。

(ｴ) 紙媒体やＷＥＢ媒体を通しての宣伝は，大いに効果があった。

(ｵ) 新しい募集要項や入学試験問題作成等の準備は，更に余裕を持って，入試等作成することができた。

(ｶ) 星美小（男子児童を含む）への説明会に参加させてもらい，宣伝をすることができた。

(ｷ) 教職員全体への内部広報・意識改革への施策を実施し，教員の中に受験生へのおもてなしの気持ちが育まれており，受験生の保護者から多くの感謝の言葉を受けた。

エ　学校改革の推進の教室用途変更･改修,老朽対策の校内放送装置の更新は，新校舎建設時に行うことで一部取り止めたが,その他は計画とおり終了した。

オ　主な大学合格実績

上智：３名，GMARCH：４名，女子大（聖心・共立・昭和など）：35名

中堅私立大学（玉川・帝京・成蹊など）：22名

医学看護私大：12名

(5) **目黒星美学園中学高等学校**

共学化・２コース制向けての学校内の改革推進の年。

ア　2023年度の共学化，２コース制実施に向けて，ロードマップに沿って着実に準備を進めた。本科指導部・インター指導部を中心に新１年生に関する準備を始め，それぞれのコースの６年間を踏まえて準備を進めた。また，２学期からは新一年部の担当教員を決定し，学年主任を中心に１年生の行事等々具体的なことを決定してきた。

(ｱ) 全教科でＰＢＬ型授業を実施し，評価基準を統一するようにした。８月末に赤羽と合同でＰＢＬの研修を行った。トリガーの共有に努めた。ルーブリック評価は確定したが今後も検討が必要。

(ｲ) サレジアン国際学園世田谷中学高等学校の６年間のカリキュラム作成について検討した（検討中)。

(ｳ) ２コース制のそれぞれの特徴とより魅力的なコースにするための検討を重ねた。

(ｴ) ゼミの内容を準備し，23年度のプレゼミのプログラムを作成した。

(ｵ) 中高一貫教育の具体案を作成し，現行行事の見直しと新規行事の検討を継続してきた。

(ｶ) 校則やクラブ活動など学校生活の細部に対しての周到な準備をするため，生徒指導部との話し合いを進め，決定した。

イ　2022年度の在校生，特に新入生に対して十分な配慮を行った。

(ｱ) 21世紀を生きる姿は，「真の主体性を持つ人」であり，「Faccio io」の精神のもと，21世紀に活躍するための世界市民力育成につなげていった。

(ｲ) 多様性を認め，他者に対して共感的理解ができるよう，朝礼の話や行事等で意識づけた。

(ｳ) サレジアン生徒同様，１年生は英語が８時間となるので，十分対応できるよう努めた。能力の差があり，TT にするなどして工夫を重ねた。

(ｴ) 問題解決のために他者と協働し，自己実現と社会貢献を達成できる機会として VCP を活用した。

ウ　VCP・新カリキュラム・ICT の推進

(ｱ) VCP として「教育と探求社」のプログラムを活用し，よりよい社会を目指すための取り組みを考え，１月にプレゼンを行った。また，１月のプレゼンで高い評価を受けたグループが「教育と探求社」主催の大会に参加した。

(ｲ) 新学習指導要領に沿った新カリキュラムを決定し文系・理系クラスを明確に分けるため，進路指導に力を入れた。

ａ　新カリキュラムを実施。

ｂ　新シラバスを作成した。

年間の単元実施計画・単元の内容と評価基準（ルーブリック）

ｃ　2022年度は土曜登校が始まり，週37単位になり，授業時数を確保することができた。

d　朝礼・朝読書・天声人語・フォーカス・言語力探求・小テストなどの朝活動について実施した。その中で，新体制でそれらを継続するかどうかの検討を続けた。

e　内部生入試・帰国生入試・２月の一般入試について対策を練り，実施した。

(ｳ) 次世代ＩＣＴ教育の推進

タブレットを全員が所持し，各教科やHRの活動などでも活用した。プレゼンのできる環境を整えるためのハード面の充実を検討した。

エ　サレジアン国際学園世田谷中学高等学校の募集広報について

(ｱ) 予想を上回る説明会出席者・受験者数となった。(説明会は回を重ねるごとに午前も午後もほぼ満席となった。)

(ｲ) 新パンフレットを作成，ホームページにサレジアン国際学園の特設をした。

(ｳ) 塾との連携を強化するために，塾周りや，塾関係説明会などをコロナ禍以前の体制に戻した。

(ｴ) 駅の看板やＷＥＢ媒体，雑誌などを通しての宣伝に力を入れた。

(ｵ) 新しい募集要項を作成し，入学試験問題作成に力を入れた。

(ｶ) 目黒星美小との連携を強化し，内部進学について検討を重ねた。

(ｷ) 職員会などで教職員全体への内部広報・意識改革への施策を実施した。

オ　リフォーム等の実施

職員室・相談室などの拡張，ラボ室・男子トイレの設置，女子トイレのウォッシュレット化の準備，教室のロッカー一部撤去，各教室へのロールカーテンの設置，カフェテリアの机・椅子のセッティングなど。

カ　共学化を視野に，21世紀型教育のための「新カリキュラム対策」の推進

(ｱ) 問題分析から授業への還元方法を検討・推進した。

(ｲ) 調査書・ポートフォリオの作成を推進した。

(ｳ) 進路説明会を高校生対象に実施。保護者も来校した。

(ｴ) 大学訪問を進路指導部主催で行った。(聖心女子大学)

キ　英語教育の推進

2023年度からのサレジアン国際におけるインターナショナルコース設置に伴い在校生にも注力できるよう，分掌上に，インター指導部を設立。

オーストラリア・ヴィクトリア州の教育省との連携，サンベリーの兄弟校との連携を強化し，Dual Diploma 取得の第一歩を進めた。

インタナショナル・ティーチャーは５名増員し，2023年度に備えた。

(ｱ) 英語教育の充実のために

・３学期にニュージーランドへのターム留学を実施。９名参加。

・サレジアンカレッジ短期交換留学の準備。(実施は2023年度夏)

・一般教職員の英語研修の実施。

ク　ボランティア教育　防災教育

実際にボランティアのために被災地などを訪れることはできなかったが，校内でボランティア教育・防災教育に力を入れた。

ケ　主な大学合格実績

早慶上智：８名，GMARCH：６名

女子大（津田塾・聖心・日本女子など)：６名

中堅私立大学（日大・専修・成蹊など)：14名

医学看護私大：５名

(6) **星美学園小学校**

ア　教育重点目標の充実（見えない力を育むために)

(ｱ) 毎月の職員会議前の10分間，宗教研修として月のみ言葉の読み深めやその月ごとの宗教行事について教員で学ぶ機会を持った。

(ｲ) 建学の精神に沿った教育ができているか学期ごとの自己評価シートにより，自分自身の実践をふり返る機会を持ち，次の実践に活かした。

(ｳ) 「星美のかしこい子」

星美のかしこい子の中から，し「しんせつなやさしい子」を重点的に指導した。学校全体としては，大きないじめの事案もなく，児童はお互いに助け合って過ごせた。

イ　学習指導要領実施に向けてのカリキュラムの実施

(ｱ) コロナの感染状況を見て，コロナ禍前の学習に戻しながら，予定していたカリキュラムの実施はできた。

(ｲ) 不登校の児童には，家庭と Zoom を繋ぎ，オンラインで学習などに参加してもらい，学校に来られるようにサポートしたが，なかなか登校できるまで行かない児童がいた。(２名)

(ｳ) 宗教科「からし種」の授業実践も３年目に入り，全校研修でも「からし種」の授業研究を行い，また，１年間に全教員が「からし種」の授業を実践した。各クラスの実態に応じて，適切な「み言葉」を選び，児童により良い生き方を考えさせた。

(ｴ) 英語の学習では，ロイロノートスクールを利用し，２年生以上は，音声または動画を毎週提出させ，一人ひとりの発音のフィードバックを行った。

(ｵ) 児童が主体的に学び，考えを深める授業改善を行うために，全教員が年１回は，研究授業を行い，授業力を高める実践を行った。

ウ　ＩＣＴ教育の充実

(ｱ) ４年生が個人で iPad を所有し，調べ学習に利用したり，学習に有効なアプリを入れたりして，学習の道具として効果的な教育活動を行った。

(ｲ) プログラミング教育の実施・・・年間の指導計画案を基に，コンピュータを使わないアンプラグドプログラミングを含め，１年生から iPad を使ったプログラミング学習を行った。

エ　教員研修

(ｱ) 創立者の教育理念を継承するために，夏休みの SDB では，星美ホーム施設長の熊本幸子シスターより，星美ホームでの教育についてお話いただいた。最後に，お話を聞いて，私たちが創立者の教育理念を実践するために，２学期以降の「私の目標」を各自記入して，実行に努めた。

(ｲ) 研修テーマ「考えの根拠を明確にする授業」を継続し，児童が主体的に深く考え自分の考えを明確にする授業実践を行ったが，コロナ禍の中で対話の部分で不足が見えた。⇒今年度，研修目標に組み込んだ。

(ｳ) 全教員が参観する授業研修を年間２回実施し，低･高学年で別れて国語，体育，からし種（２コマ）の研修を実施した。

(ｴ) 教員の希望者（20名弱）が，１年間で新約聖書を読み切る「聖書マラソン」を行い，定期的に集まり「聖書」に親しみ黙想する機会を持った。

オ　生活指導

(ｱ) 「どの児童も星美の子」という意識を全教員が持ち，当たり前のことができるように一致して指導した。担任と専科でお互いの情報を共有し，児童の指導に活かした。

(ｲ) 休み時間の校庭の使い方は，３学年ずつ遊ばせ，校舎内に入る時の手洗い，消毒も学年ごとに場所を決め，密にならないように工夫した。

(ｳ) 児童に問題行動があった時には，教員で連携し情報を共有し，すぐに保護者に連絡し必要に応じて面談を行い，家庭での協力を願った。

(ｴ) 年６回のいじめ調査を実施し，児童が不安に感じていることの把握に努めた。年間を通して，大きないじめの案件はなかった。

カ　施設・環境の充実

(ｱ) 快適な使用のために,放送室器材,視聴覚教室器材の更新工事を行った。

(ｲ) 特別教室棟外壁塗装，屋上漏水防止工事を行った。

キ　魅力ある学校作り

(ｱ) 全教員でドン・ボスコの教育法を実践できるように,「いつも子どもと共に」を意識して過ごす努力をした。

(ｲ) 視覚・聴覚・肢体に障害を持つ方々や高齢者の思いを理解し連帯して生きるための体験活動を行い，２年生はアイマスク体験の他に盲導犬について学習した。

(ｳ) 国際理解の視野を深めるために，高学年は生活困窮者や外国人のために医療支援している方や外国でボランティア活動をしている方々の話を聞き，自分にできることをふり返った。

(ｴ) 宿泊学習は感染予防に努めながら，全て実施でき，特に大きな問題もなかった。

ク　入試広報

(ｱ) 学校説明会は,９月には感染者が増えたので,人数を限り２回行ったが,その他は予定通り実施できた。幼児教室は個別に３か所訪問し，説明を行い，連携を深めた。

(ｲ) 幼児向けの動画「せいびのおへや」を年間15回配信し，学校生活の様子を伝え,受験者にも好評だった。今年度４月末でチャンネル登録者数も500名を超えた。

(ｳ) 星美学園幼稚園からは30名の入学者があった。年長児と２年生の交流会を２回行った。

(ｴ) 中高がサレジアン国際学園に変わったことに影響があるのかコロナ禍が落ち着いて来たことにもよるが，学校説明会に参加した人数がトータルで720名と増加した。また,インターナショナル幼稚園から入学した園児が増えた。

ケ　学校生活の安全確保

(ｱ) 様々な状況を想定した避難訓練を年間６回実施し，非常時の安全な避難について指導した。

(ｲ) 室内では，大きな声を出さないことや廊下や階段は落ち着いて歩くなど基本的な生活習慣について，指導したが，まだ定着できていない。

(ｳ) １年生の下校時刻を毎月赤羽警察署・生活安全課に知らせ見回り活動を実施してもらった。学校で児童の安全について，何か困った事案があった

ら，スクールサポーターに連絡をし，指示を仰いだ。

(7) **目黒星美学園小学校**

ア　こころの教育

(ｱ) 人への思いやりや優しさに欠けたり，ルールを守れなかったりする言動に対しては，教職員が一丸となって，「心の教育」を意識した指導を展開してきた。朝礼の時間のほか，日常生活の中で起こる小さなトラブルの際は，子ども達の話をしっかりと聞いたうえで，人を大事にすることを，各々の教員が子ども達に伝えてきた。

(ｲ) 児童についての情報交換を教員間で密にし，全教職員で全児童を見守り指導してきた。家庭環境がそれぞれ異なり，他の児童と同じような生活ができない児童には，多くの教員が関わり，声をかけ励ましてきた。

(ｳ) サレジアンシスターズの教育目標「18歳のプロファイル」について教員への浸透を図るため，夏に研修を行った。

イ　共に学び合う授業

(ｱ) コロナ禍にあった期間，表現する体験が激減した子ども達のため，自分の考えを伝えたり，人の話をしっかりと聞いたり，考えたりすることの習慣を取り戻すため，各教員が工夫して授業を組み立て実施してきた。

(ｲ) 令和３年度中に，教育課程委員会の推進のもと，合宿を中心としたカリキュラム編成を行ったが，それを基に授業を展開することができた。

ウ　ICT の活用

(ｱ) 各学年に一名ずつ ICT 推進担当者を配置したが，実際は，ICT に強い教員に負担がかかる結果となった。クラスを持たず，これに専念できる教員の存在が不可欠であると感じた。

(ｲ) 文科省が推奨する「体験させる」ことを考慮し，iPad での操作活動（プログラミングソフト「スクラッチ」）に児童が取り組めるようにした。また，高学年については，中学校での学習にスムーズに繋げられるよう，パソコンでの文字打ちやパワーポイントを使用してのプレゼンテーションも行えるよう指導した。

(ｳ) 国際理解教育として，オーストラリアのセントケビン小学校との交流を英語の授業内に行う予定であったが，現地校の教員の異動等で実施できなかった。→令和５年度からはセントパイアス小学校との交流に移行する。

エ　コロナ禍での学習からの移行

令和４年度は，時程をコロナ以前のものに戻し，日々の学習がしっかりと

できるようにした。感染症関係，または家族の体調不良等で欠席の児童については，オンライン授業を実施した。

オ　行事について

(ｱ)「合宿」については，２年ぶりとなるため，入念に下見を行った。また，感染症対策として,参加児童と引率教員は合宿直前にPCR検査を実施した。

検査の結果，２名は陽性となり，出発直前に参加を見送ることにした。しかし，実際は現地で発症する児童もいたが，早めの隔離により濃厚接触に当たる児童や教員は出なかった。

(ｲ) 伝統的に行ってきた「音楽会」については，教員の「働き方」にも考慮し，令和３年度より形を変え，各学年一年に一回発表の時をもった。しかし，教員からは，以前の音楽会に戻したいとの声が強かったため，令和５年度には，以前の形に近い音楽会を実施することになった。

カ　教員の資質向上

(ｱ) 創立者の精神を深め，サレジアンカラーを意識して教育に当たるため，毎月サレジアンカラーの一項目を目標として掲げ，週の初めの終礼では祈りとして全員で唱えた。

(ｲ) 全教員が，本校に奉職する一教員であることを意識し，ドン・ボスコの教育を実践できるよう，職員会では『ドン・ボスコの心で教えよう』を読み，学ぶ機会をもった。

(ｳ) 新任教員には，授業力・教師力アップと積極的に仕事を行うことができるよう，嘱託教員１名をその指導として配置した。

(ｴ) 中堅教員には責任をもって若手を指導しながら，学校を担う者としての自覚を養うよう推進する予定であったが，令和５年度より始まる新しい試みについての会議に時間をかけたため，推進する時間を生み出すことが難しかった。

キ　いじめ及び体罰防止についての方針作成

(ｱ) いじめについて

a　本校の「いじめ防止基本方針」を見直し，より本校の現状に即したものに改訂しつつある。(進行中)

b「いじめ」防止のため，各教員は愛情をもってより積極的に子ども達とかかわってきた。

(ｲ) 体罰について

a　教職員に徹底するため，体罰防止については定期的に話をしたり声を

かけたりし，また，児童の指導については複数で対応するようにした。

b　体罰行為があった場合の対応方法などのマニュアルを作成する予定であったが，まだ手をつけていない状況にある。

ク　入試広報活動

(ｱ) 令和３年度（４年度入学）の入試より，Ｂ日程の試験をそれまでの11月３日から21日に移動し，令和４年度も継続した。結果はこれまでとさほど差はなく受験者を確保することができた。しかし，例年とは異なり，Ａ日程受験者の辞退が多かったのみならず，３月26日に他校繰り上げにより1名が辞退となり，最後まで動向が見えなかった。結果，令和５年度の新入生は101名となった。

(ｲ) 令和４年度開始当初は，まだコロナが収束していない状況にあったが，安全を配慮しながらハイブリッド型の案内会や説明会を実施した。

(ｳ) 令和４年４月よりホームページをリニューアルするため作業を進め，予定通りにスタートできるよう整えた。

ケ　働き方改革と個別指導

(ｱ) 時程について

令和４年４月より，児童の登校時刻をコロナ以前の７時45分に戻し，教員の出勤も同じく７時45分とした。１時間目の前にモジュールの時間を入れ，ここで漢字学習を入れたことにより，授業時間をしっかりと確保することができた。また，放課後に個別指導が必要な児童を支援するため，課外活動を木曜日のみに固定し，他の曜日には指導の時間を設けた。

(ｲ) 仕事の軽減について

欠席や遅刻等の連絡についてはスクリレの導入，また，購買部での物品購入については事前に希望を出すことにより，事務室の仕事が軽減されるようにした。

教員の通知表や指導要録などの作業についても，教務と ICT とで協力しながらできるだけ負担を減らして作業ができるよう工夫した。

(ｳ) ペーパーレス化

終礼での連絡事項や職員会等，可能な限りペーパーレスとし，ロイロノートやスプレッドシートなどを利用した。紙の節約のみならず，時間の短縮もできた。

(8) **星美学園幼稚園**

ア　令和４年度教育プロジェクトの成果と反省

令和４年度の教育重点目標「りそうをめざして生きる子ども」「のびのびと表現する子ども」を育てることは，数字で評価することはできないが，保育の記録や，保護者からの書面及び学校評価から概ね達成できたのではないかと思われる。

クラスだよりを通して教育内容を丁寧に伝えられたことや，降園時直接保護者と話すことで，子どもの育ちを丁寧に伝えられたこともよかったのではないかと思われる。

全学年集団での生活や遊びを通して，友達からの刺激を受け，思考力や創造力を身に着ける姿が見られた。年中，年長はグループでの遊びやゲームに取り組み，他者との違いを受け入れ合う大切さを感じているようであった。また年長組は「こどもの哲学対話」を通して，深い学びができたと感じている。

イ　教職員の研修

子どもの遊びの環境づくりを通して，次の日につながる保育をするための記録に重点を置いて研修を積み重ねてきた。学年での話し合いの他に３年間を見通した保育ができるよう，他学年の保育の内容やその時々の問題点など共有している。

ウ　保護者との連携強化

降園の際，日々の出来事を伝えたり，保護者の相談を受けたりしながら，子どもの育ちを保護者と共に考え，見守ったり促したりしてきた。

また，学年やクラスでの活動は，学年だよりやクラスだよりで丁寧に伝えることで，日々の教育内容を理解していただけるよう配慮してきた。

毎日預かり保育を利用している家庭とクラス担任が直接話す機会が少なく，連絡帳を介してのやり取りになっていることが課題である。

エ　働く保護者への支援・預かり保育の拡充

令和４年度より18：00まで時間を延長し，実施日数を増やした。令和５年度の園児募集の増加とはならないようであったが，保護者からは好評を得ている。

オ　広報の充実

未就園児行事「星の子会」を再開したが，園内に感染症が広がった影響で実施回数が限られてしまった。見学説明会においては一日５組で実施し，普段の保育の様子を見て頂いたり，園内で遊んだりして園の雰囲気や教育活動を理解していただけるようにしてきた。

カ　他校種との情報交換及び連携

(ｱ) 短期大学…見学実習の受け入れをした

(ｲ) 中学校高等学校…職場体験の生徒の受け入れをした。

(ｳ) 小学校…内部小学校就学30名（73名中）昨年の23名から若干増加した。

キ　働き方改革

定時退勤が習慣化されている。クラスだよりの作成や日々の子どもの記録等時間がかかる仕事を時間内にできるよう，保育後の仕事（片付けや掃除，翌日の準備等）を効率よくできるよう配慮した。勤務日の土曜日を，クラスだよりや個人の記録，保育の計画に充てられるよう在宅勤務を実施した。

ク　サレジアン国際学園中学校高等学校建築に伴う園舎移築

園舎移築はしないこととなったので，老朽化した施設設備を計画的に修繕していくこととした。

2　施設設備等の主要事業

令和４年度の主要事業は，概ね計画どおり実施した。

(1)　法人本部

1	幼稚園園舎プロポーザル等委託（中止）
2	幼稚園園舎設計（中止）
3	中学校高等学校校舎プロポーザル業務委託
4	弁護士業務委託

(2) 星美学園短期大学

1	V-Boot システム端末更新(LL,301,311 教室ハードウェア 57 台)
2	視聴覚教室マルチメディア教卓周辺機器等更新
3	正面玄関自動ドア化

(3) サレジアン国際学園中学校高等学校

1	ネイティブ講師の派遣
2	特別教室棟理科室改修
3	部活動コーチ委託費
4	学校改革における教育監修
5	体育館照明装置更新
6	特別教室棟理科室改修用備品
7	体育館外壁塗装工事

8	理科授業・ゼミ実験機材
9	教職員増に伴う什器
10	トイレ等改修に伴う備品
11	体育館階段補修
12	普通教室棟トイレ改修等
13	校内放送設備更新
14	普通教室棟ＥＶ設計費
15	特別教室棟エアコン設置

(4) 目黒星美学園中学高等学校

1	男子トイレの増設
2	職員室の改修
3	理科科教室の改修
4	理科科教材の購入
5	教務改革における教育監修顧問
6	ネイティブ英語講師の派遣
7	駐輪場の整備
8	看板等の付替え
9	ラウラホール LED 照明工事
10	職員室のＯＡフロア化工事
11	カフェテリアの設置
12	事務室のＯＡフロア化工事
13	相談室の設置
14	ロールスクリーンの設置
15	教員用更衣室の改修
16	スクールバスの看板の付替え
17	電話交換機の更新
18	体育館無線 LAN システム増設

(5) 星美学園小学校

1	校舎屋上漏水防止・外壁塗装工事
2	放送室用器材更新工事
3	普通教室棟ＥＶ更新工事
4	視聴覚教室器材更新工事

5	特別教室棟ＥＶ設置設計費（中止）

(6) 目黒星美学園小学校

1	外壁大規模改修（第２期）
2	校内 Wi-Fi ルーター設置
3	棚用扉設置（中学年教室）
4	地下１階廊下又は第１音楽室楽器棚の増設
5	教室及び廊下窓枠の補修整備

(7) 星美学園幼稚園

1	ノートパソコン
2	ネットワーク装置更新工事

Ⅲ 財務の状況

1　資金収支計算書

（収入の部）

科　　目	予　算	決　算	差　違
学生生徒等納付金収入	1,522,480,500	1,535,045,500	△　12,565,000
手数料収入	25,141,000	39,289,270	△　14,148,270
寄付金収入	50,598,000	68,400,535	△　17,802,535
補助金収入	926,512,000	1,017,878,500	△　91,366,500
資産売却収入	0	0	0
付随事業・収益事業収入	7,190,000	17,037,225	△　9,847,225
受取利息・配当金収入	6,410,000	8,333,640	△　1,923,640
雑収入	73,400,000	68,175,991	5,224,009
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	201,560,000	248,623,000	△　47,063,000
その他の収入	686,430,000	724,446,948	△　38,016,948
資金収入調整勘定	△　245,275,000	△　258,743,738	13,468,738
前年度繰越支払資金	531,311,055	984,737,010	△　453,425,955
収入の部合計	3,785,757,555	4,453,223,881	△　667,466,326

（支出の部）

科　　目	予　算	決　算	差　違
人件費支出	2,196,600,000	1,997,526,990	199,073,010
教育研究経費支出	671,115,000	613,338,516	57,776,484
管理経費支出	284,640,000	230,608,860	54,031,140
借入金等利息支出	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0
施設関係支出	370,110,000	265,497,863	104,612,137
設備関係支出	169,090,000	132,557,457	36,532,543
資産運用支出	0	0	0
その他の支出	36,937,840	51,935,611	△　14,997,771
〔予備費〕	(0) 60,000,000		60,000,000
資金支出調整勘定	△　37,997,240	△　40,401,540	2,404,300
翌年度繰越支払資金	35,261,955	1,202,160,124	△1,166,898,169
支出の部合計	3,785,757,555	4,453,223,881	△　667,466,326

概　要

資金収支における収入面では，サレジアン国際学園中学校の入学者が増えて，学納金，補助金収入も増えたが，中学校高等学校の教育改革関連の支出を賄いきれず，６億円の資産の取崩を実施した。

２　事業活動収支計算書　（単位　円）

科目		予算	決算	差違
教育活動収支	学生生徒等納付金	1,522,480,500	1,535,045,500	△ 12,565,000
	手数料	25,141,000	39,289,270	△ 14,148,270
	寄付金	28,198,000	34,827,223	△ 6,629,223
	経常費等補助金	909,838,000	999,217,500	△ 89,379,500
	付随事業収入	6,090,000	13,099,981	△ 7,009,981
	雑収入	73,400,000	66,819,774	6,580,226
	教育活動収入計	2,565,147,500	2,688,299,248	△ 123,151,748
	人件費	2,196,600,000	1,994,076,892	202,523,108
	教育研究経費	1,204,215,000	1,107,408,003	96,806,997
	管理経費	304,040,000	244,400,435	59,639,565
	徴収不能額等	1,421,800	1,421,800	0
	教育活動支出計	3,706,276,800	3,347,307,130	358,969,670
	教育活動収支差額	△ 1,141,129,300	△ 659,007,882	△ 482,121,418
教育活動外収支	受取利息・配当金	6,410,000	8,333,640	△ 1,923,640
	その他の教育活動外収入	3,600,000	3,600,000	0
	教育活動外収入計	10,010,000	11,933,640	△ 1,923,640
	借入金等利息	0	0	0
	その他の教育活動外支出	0	0	0
	教育活動外支出計	0	0	0
	教育活動外収支差額	10,010,000	11,933,640	△ 1,923,640
経常収支差額		△ 1,131,119,300	△ 647,074,242	△ 484,045,058
特別収支	資産売却差額	0	0	0
	その他の特別収入	39,074,000	54,523,474	△ 15,449,474
	特別収入計	39,074,000	54,523,474	△ 15,449,474
	資産処分差額	0	3,381,493	△ 3,381,493
	その他の特別支出	0	658,411	△ 658,411
	特別支出計	0	4,039,904	△ 4,039,904
	特別収支差額	39,074,000	50,483,570	△ 11,409,570
〔予備費〕		(1,421,800) 58,578,200		58,578,200
基本金組入前当年度収支差額		△ 1,150,623,500	△ 596,590,672	△ 554,032,828
基本金組入額合計		△ 424,900,000	△ 346,634,433	△ 78,265,567
当年度収支差額		△ 1,575,523,500	△ 943,225,105	△ 632,298,395
前年度繰越収支差額		3,247,821,014	4,195,829,856	△ 948,008,842
基本金取崩額		0	151,796	△ 151,796
翌年度繰越収支差額		1,672,297,514	3,252,756,547	△ 1,580,459,033

（参考）

事業活動収入計	2,614,231,500	2,754,756,362	△ 140,524,862
事業活動支出計	3,764,855,000	3,351,347,034	413,507,966

概　要

事業活動収支における収入面では，対前年度約5,750万円増の26億8,830万円となった。一方，支出面では，対前年度約1億3,381万円増の33億4,731万円となり，経常収支は，△６億4,707万円の赤字となった。

基本金組入前当年度収支差額は，△５億9,659万円となり，また，中学校高等学校の教育改革などへの支出を増やしたことから基本金へ３億4,663万円組入れた結果，当年度収支差額は，△９億4,323万円となった。

３　貸借対照表

資産の部　（単位　円）

科　目		本年度末	前年度末	増　減
資産	固定資産	27,897,813,018	28,614,334,192	△ 716,521,174
	有形固定資産	10,234,304,934	10,345,386,255	△ 111,081,321
	特定資産	17,537,616,156	18,141,066,254	△ 603,450,098
	その他の固定資産	125,891,928	127,881,683	△ 1,989,755
	流動資産	1,285,119,475	1,118,304,564	166,814,911
	資産の部合計	29,182,932,493	29,732,638,756	△ 549,706,263

負債の部，純資産の部　（単位　円）

科　目		本年度末	前年度末	増　減
負債	固定負債	156,145,696	168,888,986	△ 12,743,290
	流動負債	573,556,956	513,929,257	59,627,699
	負債の部合計	729,702,652	682,818,243	46,884,409
純資産	基本金	25,200,473,294	24,853,990,657	346,482,637
	繰越収支差額	3,252,756,547	4,195,829,856	△ 943,073,309
	純資産の部合計	28,453,229,841	29,049,820,513	△ 596,590,672
合　計		29,182,932,493	29,732,638,756	△ 549,706,263

概　要

資産の部合計は，前年度末より７億1,652万円減の278億9,781万円となった。

負債の部については，前年度末に比べ4,668万円増加し，７億2,970万円になった。

純資産の部は，繰越収支差額が９億4,307万円減ったため，284億5,323万円となった。